

現地情報

乾田^{ちよくは}直播栽培で「山田錦」の省力低コスト化に挑戦!

酒米「山田錦」は長稈^{かん}で倒れやすく、いもち病などの主要な病害に弱いため、播種から収穫、乾燥調製に至るまで、一貫したきめ細やかな栽培管理が行われている。ここ数年、県産「山田錦」の需要が高まり、産地である北播磨地域において増産が求められる中、うるち米で確立された省力・低コスト技術である乾田直播栽培（以下「乾直」^{かんちよく}）を「山田錦」で試行し、その可能性を模索した。

1 取り組みの背景

加西市の農事組合法人玉野町営農組合は、水稻、麦、大豆等の堅実な経営を実践し、2012年度から3年間にわたって取り組んだ「水稻生産コスト12,000実践事業」では、「ヒノヒカリ」の乾直によって、玄米60kg当たりの生産費12,500円を達成した。

この3年間の取り組みにより、「ヒノヒカリ」の乾直栽培技術が確立できたため、2015年度は「山田錦」の乾直に対する適応性の確認を行った。

2 栽培概要

栽培圃場^ほは、昨年に引き続き、FOEAS（地下灌^{かん}がいシステム）圃場を選択。4月下旬から整地・耕耘^{うん}等の準備を行い、5月10日に種^{もみ}4kg/10aを播種した。施肥は、キャベツ跡であるため、肥料の残存を見込んで、基肥なしでスタートし、調整肥と2回の穂肥で生育を調整した。茎数は最高分



写真 出穂後約30日の状態(10月2日)

げつ期には㎡当たり370本前後、出穂後は㎡当たり276本（穂数）となり、病害虫の多発や大きな倒伏もなく、地域の標準並みの品質・収量を得ることができた。

表1 播種日、成熟期、生産費

区分	播種・移植日 (月/日)	出穂日 (月/日)	成熟期 (月/日)	倒伏程度 ※1	労働時間 (hr/10a)	生産費 (円/60kg)
実証区 (乾田直播)	5/10	8/31	10/23	2	12.8	12,307
対照区 (慣行移植)	6/10	8/31	10/23	2	16.2	12,362

※1 倒伏程度は、0(無)～5(甚)の6段階で表す。

表2 収量調査の結果

区分	収量(kg/10a)			干粒重 (g)	心白の発現		検査等級
	粗玄米重	酒米重※2	籾米重		発現率 (%)	心白率 (%)	
実証区 (乾田直播)	549.7	482.8	16.5	29.4	87	64.1	特
対照区 (慣行移植)	479.3	409.2	16.4	28.2	82	65.4	特

※2 酒米重はふるい目2.05mm以上

3 今後の方針

乾直は、「山田錦」についても省力・低コスト化が可能な技術であることが実証できた。しかし、2015年度産をもって、「山田錦」の増産はほぼ達成され、産地では今後安定生産、かつ品質面が重視される。

湛水^{たん}直播も含め「山田錦」における直播栽培は、法人経営などの大規模生産において作業分散等を目的とした普及が期待される。

古田 智彦（加西農業改良普及センター）

（問い合わせ先 電話：0790-47-1448）

ひょうごの農林水産技術 No.194 (2016.8) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

平成28年8月15日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408